

**【参 考】**

(有)アサヒ印刷 漆澤社長からのメッセージ

(各小学校宛に送付。内容をかみ砕いて児童に伝えてもらうよう、各小学校に依頼)。

<SDGs 下敷きをお使いいただく児童の皆様、保護者の皆様へお伝えしたいこと>

はじめまして。有限会社アサヒ印刷の漆澤知昭です。

ご縁があって、SDGs 未来都市に選定された弘前市の新たな挑戦「SDGs について学び、未来に向けてできることから取り組んでみよう」をテーマにりんご栽培の際に出る厄介者といわれている育成のために切った大量のりんごの枝から下敷きを作ると云うチャレンジに参加させていただきました。

青森県弘前市はりんごの生産量が全国第一位としても有名で、生産量だけではなく皆さんもりんごを食べおいしい!と思ったことが何度もあると思いますが、国内外からも生産量、だけではなくその味もとても高く評価されています。

その日本一のりんごを収穫する木々を育てるため、冬から春にかけて行われる大事な整枝(せいし:不要な枝を切り樹形を整える作業)のための剪定(せんてい:育成のために枝を切ること)という作業があり、そこで大量の枝が発生します。

限られた農園のスペースの中で、整枝や剪定をちゃんと行うことが樹の形を整えるだけでなく、新芽の発生を促して花つきをよくし、病害虫の予防にもなりますからとても大事な作業です。日本一のりんごを生産する弘前の農家さんの卓越した技術をもって、最小限のムダにとどめようと農家さんも大変な努力をしてくださっているのですが、それでも大量の枝が出てしまう現状があります。

毎年、剪定枝が大量に出るのを黙って見ているだけではなく当然様々活用できないものか?と様々な方面の方々がエネルギー回収を中心に取り組んでいます。それでも年間約15万トン(東京タワー37.5基分)という枝が出て、その中でも再活用しにくいものは実に4.5万トン(東京タワー11.25基分)も出てくるため、再活用というのがまだまだ追いついていないのが現状です。

そんなりんご園で、活用しきれなかったりして燃やされてしまうような、再活用しにくい枝や木に着目して再活用しようという仲間が集まって弘前大学を中心に産学官で活用法を研究する「りんご/さくら和紙研究会」が発足しました。

りんごとさくらの剪定枝を原料として、青森県産の「和紙」を作り、新たな未利用のものから観光など様々な資源を生み出すプロジェクトです。たくさんの人たちと関り挑戦し研究を重ね、活用できないと思っていた、燃やすしかないと思っていた厄介者である再活用出来なかった剪定枝も、なんと和紙という形にすることができました。

今回皆さんに配布する下敷きは、その和紙を皆様の毎日の日常で感じてもらい、すぐそばで毎日のように使って思い出して欲しい、そんな思いから和紙と厚紙を貼り合わせ下敷きにして皆さんに使っていただく、というプロジェクトが始まりました。

下敷きを作るため、りんご和紙に印刷をしたところ、普通の印刷用紙と違い、この和紙特有の短い繊維が抜けて、その繊維が印刷するたびに少しずつ集まって大きくなり機械に絡まるなどが起き、私たちも経験した事がない予想外のスレ、カスレ、色むらが出ました。機械も何度も止まって大変でした。

綺麗に同じように仕上がらないなあ、もうダメかなあ。と思った時に、一枚一枚が少しずつ違う仕上がりに「はっ！」と気づかされました。

みなさんに渡った下敷きを是非皆さん同士で比べっこしてみてください、若干色とかズレたりカスレが出たりムラも出たりしていると思います。みなさん一人ひとりが皆違う個性をもつように、この通常印刷に比べ多くの時間を費やし挑戦して印刷した、なんとか出来上がった下敷きもその特性上、風合いや印刷が1点ごとに異なる個性を持っている事に気が付いたのです。

最新鋭の機械や、長年の職人さんがチャレンジしても失敗の連続で、何度もやり直しして、出来ないんじゃないか？と思った下敷きも一枚一枚に違いがでたものの、その違いこそがチャレンジの証なんだなあ、チャレンジしてみて私たちアサヒ印刷も気づかされたのです。

この下敷きを見た時に、ちょっとしたカスレやズレ、ムラを見た時に、みなさんにも是非思い出して欲しいです。

「SDGsについて学び、未来に向けてできることから取り組んでみよう」は、

何か、やったことが無い事にチャレンジする。

成功するかどうかわからないけどやってみる。

見た目や形は全く同じにならないかもしれませんが、でも、大事なことは「未来のために」「未来に向けて」という事。見た目が綺麗かどうか、同じかどうか、良いか良くないかどうか、そういう基準だけでは決して得ることができないようなチャレンジを「皆さんが未来にむけて」してみるという事を是非、下敷きを見る時思い出してください。

皆さんがSDGs(持続可能な開発目標)を学び、取り組みをする時に、大事な事をしっかりと胸に抱いて、諦めず何でも挑戦する人になっていただきたいと思います。私たちがやってみて今の現状でここまでできなかった事も、皆さんが「取り組んでみよう」という気持ちをもって取り掛かってくれる時、きっと次の形になって乗り越えて行ける、皆さんが作る未来が待っているのだと思います。

これからも私達もくじけないで「取り組んでみよう」の気持ちで頑張ります、皆さんも是非、「未来に向けてできることから取り組んでみよう」の気持ちで一緒に頑張りましょう！